

平成31年 直方市成人式 503人が晴れて大人の仲間入り



1月13日、直方市成人式がユメニティのおがたで開催されました。新成人対象者503人のうち、当日来場したのは男性181人・女性180人の計361人。晴れ着姿の華やかな新成人たちが、期待を胸に会場に集いました。

式典は鞍手高校吹奏楽部による演奏で幕を開け、市内4中学校校歌のメドレーのほか「U.S.A.」「ダンシング・ヒーロー」など、平成後半の話題曲も。一緒に歌い踊る新成人の姿も見受けられました。演奏後は、直方市出身の音楽家野上結美さんによる国歌独唱、会場に展示した書を作成した筑豊高校・直方高校の生徒からのメッセージ、「祝成人」の書に挿絵を描いた谷尾美術館こどもスタッフからのメッセージ、中学校時代の恩師からの祝辞が贈られるなど、様々な催しがありました。壬生市長は「様々な人生の節目を経て、今日を迎えたことでしょう。一人の成人として自分の人生を切り開き、自分自身の指揮官となってほしい。また、いづれ皆さんの力がこの直方にもたらされることを期待しています」と激励しました。

最後に新成人代表の中嶋芽唯さん（直方第三中学校出身）が「幼少時から習っていた武道を通して、目標に向かって努力することの大切さを学んだ。たくさんの人に支えられてきたことを忘れず、社会に貢献できるように、自分を磨いていきたい。また、大人としての自覚を忘れず責任を持ちたい」と決意を述べました。

式典後には、歓談の場でコーヒーや茶菓子がふるまわれ、当日の様子や恩師からのメッセージを映像作品にしたものを上映しました。上映後は、国歌を独唱した野上さんが再び登場し、直方観光PRソング「のおがたフレンズ」を披露。会場内は新成人たちの笑顔で満ちあふれていました。



黒にんじんの子ども食育体験

12月22日、若草保育園の年長20人を対象に、黒にんじんの食育体験が行われました。この催しは、明治町商店街にあるフラワーメイト花田の金田満さん（69）が、今年から本格的に栽培を始めた黒にんじんを使って、市内の子どもに食育体験をしてもらいたいという思いで3年前から実施しています。

黒にんじんは、生の状態ではその名の通り皮の色が真っ黒。このにんじんを酢につけると、色が徐々に変化して、鮮やかな紫色になりました。園児らは「シソみたい」「きれい」と、大歓声を上げていました。

その後、このにんじんを酢飯にして、お弁当に盛り付けました。桜でんぶや錦糸卵、福神漬を自分たちでトッピングしていきます。全員終わったら、皆で「いただきます」のランチタイム。園児たちはおいしそうにお弁当を頬張っていました。金田さんは「子どもは財産なので、地域で大事に育てていきたい。このような体験を、子どもたちが大人になっても覚えてほしいし、さらに次の世代へも受け継いでほしい」と嬉しそうに園児を見守りました。



初めての黒にんじんを堪能中



盛り付け前（上）と盛り付け後（下）



色が変わったにんじんにびっくり

自らの地域は自ら守る 消防出初式を開催

1月13日、市消防本部前の遠賀川河川敷駐車場で行方市消防出初式を開催しました。消防団員約200人が参加し、表彰や人員報告、観閲者による点検、分列行進等を実施しました。また、アトラクションとして鞍手高校吹奏楽部による演奏・マーチングが行われ、出初式に華を添えました。

市消防団長の矢野富士雄さんは答辞で「さらに団結力を強化し、地域の安全を守ってほしい」と誓いました。

最後に新年の安全を祈願し、8色の放水を行う「祝賀放水」を実施。カラフルな放水に、見学に訪れた市民らは歓声を上げていました。



サイレンが鳴り響く中、華やかな祝賀放水が行われました